

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

平成31年度(令和元年度)事業報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

◆事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

(1) 国内森林保全事業

- ・ 岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業 P2
- ・ 千葉 君津市、木更津市での植樹地メンテナンス事業..... P3
- ・ 埼玉 飯能市での森林整備事業..... P4
- ・ 静岡 川根本町での森林整備事業..... P5
- ・ 静岡 静岡市梅ヶ島地区での森林整備事業..... P6
- ・ 奈良 吉野町での間伐／PAL植樹地整備事業..... P7
- ・ 広島 竹原市での植樹メンテナンス事業..... P8
- ・ 子ども自然体験事業..... P9
- ・ 新規植樹地調査..... P10
- ・ 間伐材利用促進事業(結糸プロジェクト)..... P11
- ・ 生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人CEPAジャパン事務局)..... P12

(2) 海外環境保護事業

- ・ ブラジルでの河岸林保全事業..... P13

(3) バガス(非木材紙)普及事業

- ・ バガス普及啓発事業(大学学園祭へのモールド導入)..... P14

(4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・ 環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)..... P15
- ・ 分散型電源導入事業(経済産業省 資源エネルギー庁)..... P16
- ・ 廃炉・汚染水対策事業(経済産業省 資源エネルギー庁)..... P17

◆2019年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧 P18

1) 国内森林保全事業

【岩手・西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

8月3日(土)、岩手県和賀郡西和賀町にあるザ・パックフォレスト活動第1号地において、地元の「西和賀森づくり隊」のメンバーを中心に、植樹地の下刈りを行なった。

下草は、県道から植樹地へアクセスする私道は自動車を通れないほどに繁茂していた。私道、植樹地やザ・パックフォレストの看板周辺を中心に刈り払い機を使って作業を実施した。また今回は、隣地の大きなクリの木が覆い被さるように茂っていたため、長い柄の特殊なノコギリを使って、高い枝を切る作業を念入りに行った。柄は節で分解可能で、段階的に高所の枝を切ることができる。

今後も年に1回、地元の方々と交流しながら、植樹地の整備、維持に努めていきたい。



高所にある枝を切る超ロングのこぎり



微妙な力加減がけっこう難しい



生育は大変良好



西和賀森づくり隊のメンバー

【千葉県君津市「四季彩(しきさい)の森」&「豊果(ゆたか)の森」の育林活動】

君津市の植樹地「四季彩(しきさい)の森」(2007～2009)と「豊果(ゆたか)の森」(2008)は、植栽後から丁寧に育林を続けて 10 年以上が経ち、いずれの苗木も強く大きく成長していることを確認することができた。

◆君津市「豊果(ゆたか)の森」＜4 月 20 日＞

参加者は EFF3 名(高橋、美濃部、大垣内)+5 名。平地部および傾斜地部の草刈り、サブリガードの撤去回収(平地部道路側の枯死したもの)を実施した。また、アメリカシロヒトリ(チョウ目ヤガ上科トモエガ科)の幼虫が巣を作り、弱ってしまっているウメの苗木が多くあったため、その部分を火で炙り、取り除いた。

コンディションの悪い土壌への植栽だったことから、平地部の一部の苗木の生長が遅れていたが、だんだんと活着が進み、順調に生育できるようになった。後日、大垣内が友人たちを連れて、ウメ狩りに訪れている。収穫したウメは梅酒にして、活動メンバーで山林の再生を喜んだ。継続して、丁寧に育てていきたい。

◆君津市「四季彩(しきさい)の森」＜4 月 20 日＞

豊果(ゆたか)の森の作業の後、同じメンバー(EFF3 名+5 名)で、四季彩(しきさい)の森に、車を走らせた。カツラ、オニグルミ、クリなどはサブリが膨らむほど太く生長しているが、それらに比べて、トチは生長が少し遅いようだ

苗木の生長の障害となるアブラギリを伐採し、また、生長が著しい苗木の膨らんだサブリガードを外す作業(計 40 本ほど)、資材廃棄物の片付けを行った。生育状況は大変良好である。

ヒル被害を避けるため、4 月実施としたことが功を奏し、豊果(ゆたか)の森、四季彩(しきさい)の森、両サイトともヒルが少なかった。ただし、美濃部がマダニに咬まれた。病院で治療を受け、大事には至っていない。

【千葉県木更津市「皆登里(みどり)の森」の育林活動】

同地は、最後の植栽活動(2015 年 3 月補植)が終了して、5 年が経過している。以降、毎年夏から秋にかけて下草刈りと苗木のメンテナンス活動を続けてきている。

◆木更津市「皆登里(みどり)の森」＜6 月 30 日＞

参加者は EFF1 名(高橋)+4 名。午前中に看板手前部分(平坦部)から草刈りを始め、斜面(植林部分)は左から右方向へと刈り進めた。午後は平地部の草刈りを 2 人で、残りの 3 人で苗木近くの竹とアブラギリを伐採して陽を当てる作業に取り組んだ。また、枯死した苗木の資材(サブリガードや支柱)を片付けた。

1, 2 年目の苗木(斜面上部)は昨年以下草刈りをしなかったため、灌木が生い茂り進入が困難だった。後期植林地(斜面下部から右奥方向)は下草刈りをしているため、植林木を確認しながら作業を進めることができた。幹を切られた苗木もヒコバエが出て健気に生きている。右奥は圧倒的に生長の早い竹やアブラギリが繁茂し始めており、今後の対応を検討したい。



豊果(ゆたか)の森



アメリカシロヒトリの幼虫の巣



四季彩(しきさい)の森



皆登里(みどり)の森

【埼玉・飯能市での森林整備事業】

埼玉県飯能市での保全活動も 8 年目を迎えた。2019 年度も、サイタ工業株式会社の協賛を得て、植樹地の草刈り活動に取り組んだ。

◆草刈り活動

活動日：2019 年 7 月 13 日

活動場所：埼玉県飯能市白子の植樹地

参加者：EFF3 名（高橋、美濃部、大垣内）、一般ボランティア 6 名（協賛企業の社員 1 名を含む）、セミプロ 3 名

入山して向かって右手斜面の植樹地（1～2 年目）は、美濃部と大垣内＋一般ボランティア 6 名が長柄鎌を使い、一方、左手斜面の植樹地（3～5 年目）については右手斜面よりも若干急峻になるため、高橋とセミプロ 3 名が刈り払い機で、苗木周辺の下草を刈っていった。

一般ボランティアの担当とした右手斜面も、左手斜面ほどではないが急な坂と、いたるところにある棘のある植物に阻まれ、作業はかなりの重労働になった。次年度以降、一般ボランティアの活動内容については見直しが必要と考える。結局、一般ボランティアの手では右手斜面の下草を全て刈ることができず、途中で断念した。作業を午前中に終えて、植樹地下のスペースにブルーシートを広げ、みんなで昼食（おにぎり）の後、一般ボランティアは和紙染めと間伐材うちわづくりのワークショップを楽しんだ。

※ ワークショップは小学生以下の子ども向けに準備していた企画だったが、小学生の参加はゼロだった。

右手斜面の刈り残した草は、イベント終了後に、居残った高橋＋セミプロ 3 名によって刈り払い機できれいに刈られ、苗木の生育を補うことができた。



【静岡・川根本町での森林整備事業】

◆ 大井川の水源涵養能の向上を目指した森林保全事業「川根 GREEN PARTY」【間伐編】

11 月 23 日(土)に、中外製薬㈱の協賛を得て、大井川の水源涵養能と強い保土力の向上を目的に、地元 NPO のかわね来風との共催で間伐体験イベント「川根 GREEN PARTY」【間伐編】を実施した。主な参加者は中外製薬㈱の藤枝工場の社員の皆さまとそのご家族で、計 29 名(うち小学生の子ども 10 名)が日頃は足を踏み入れることのない山林での非日常体験に汗を流しながら、山林の整備に取り組んだ。

当日の朝の天気予報まで雨天の予報だったため、活動できるかどうか心配されたが、当日を迎えてみれば快晴で、大変良好な気候の中で実施することができた。間伐体験活動は少なからず危険も伴うため、小学生が木を伐る際は十分に注意を払い、地元林業家の指導を仰ぎながら取り組んだ。活動中も、また活動後のお弁当の時間も参加者の笑顔が絶えず、良い体験を提供できてとても良かったと思う。



生まれてはじめて、木を伐っています。



みんなで記念写真。がんばりました！



11/27 静岡新聞

◆ 山林の保水力・保土力向上と大井川の再生のための森林保全事業「川根 GREEN PARTY」【草刈編】

8 月 17 日(土)に、地元林業家の指導のもとで、静岡県内の若者 8 名(うち、地元高校生 3 名)、中外製薬(株)より 3 名のボランティア計 11 名を集めて、2014 年の植樹地(田野口)の下草刈、サプリガードのメンテナンス作業を行った。地元林業家の指導のもとで実施したので大きな怪我は無かったが、2 名がヒルに咬まれて流血した。苗木の生育は順調だが、まだ細い木が多く、引き続き丁寧な育林に努めていきたい。



「第 2 回川根 GREEN PARTY」の植樹地(田野口)



リピート率の高い若者ボランティア

【静岡・静岡市梅ヶ島地区での森づくり事業】

◆ 持続的な森林保全の基盤づくりを目指した市民とステークホルダー連携による森づくり事業

11 月 5 日(火)、積水ハウスマッチングプログラムの助成を受け、安部川源流地である静岡市最奥部の梅ヶ島地区の山林で、積水ハウス(株)の社員を対象に間伐体験イベント「梅ヶ島 GREEN PARTY」を開催した。参加者は全 14 名で、静岡支社と藤枝支店の社員、また、社員の子ども(2 歳と 6 歳の女儿)だった。

作業は 3 班に分かれ、それぞれに地元林業会社の鈴木林業(株)の社員が指導者としてつき、安全の徹底、丁寧な説明を受けながら、約 2 時間の間伐作業に没頭した。鈴木林業(株)による大径木の伐倒のデモンストレーションも行われ、参加者には林業の専門的技術指導を受けながら、厳しい間伐作業を体験し、森林保全の重要性を深く学んでいただくことができた。



女子社員も、出際良く間伐できました！



デモンストレーションで伐倒した大径木の切り口を覗き込む

【奈良・吉野町での間伐／PAL 植樹地整備事業】

◆ 元気森・MORI in 吉野山

11 月 16 日(土)、奈良県吉野山で、一般市民と協賛企業のボランティアを集めた間伐体験活動「元気もり・MORI in 吉野山」を実施した。毎年恒例のイベントで、町内外から、リピーターを含む多くの参加者に集まっていた。全 7 班に分け、各班の林業専門家の指導のもと吉野の山の森林整備に汗を流した。

まず、伐る木を選び(選木)、倒す方向を決め、縄を木にかけ、腕の反動で上へ上げていく。ベテランボランティアは、一年ぶりの縄上げも慣れた手付きだ。鋸で 3 分の 1 程度の切込みを入れた後は、反対側から鋸で切っていく、ある程度のところで縄を引っ張って木を倒す。

作業終了後には、参加者全員で、大変暖かい日の中、配給を受けた豚汁とおにぎりで一息をつき、各々の活動成果について語らい、交流した。昼食後は、吉野の間伐材を材料にしたベンチを制作した。吉野山では観光客が一息つくためのベンチが劣化、不足しており、観光振興のために有効に活用されて大変うれしい。



まずは受け口を作る作業から



ボランティアによる縄掛け

<実施概要>

日時：2019 年 11 月 16 日(土) 場所：奈良県吉野郡吉野町 近鉄吉野駅の目の前
活動：間伐予定地 1ha(40 年生スギ・ヒノキの混合林)のうち 1ha の山林の 20%(約 120 本)の間伐

<参加者> 68 名

ザ・パック(株)、(株)エディオン、吉野中央森林組合、吉野山林業研究会、吉野山自治会、一般参加の皆様、NPO 法人地球と未来の環境基金

◆ 世界(文化)遺産吉野の山の森林保全事業

2010 年 11 月より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と 5 者協定「世界(文化)遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL／フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。

2019 年は植樹地の下草刈り、枯れた苗木の植え替え、鹿の食害防除ネット(サプリガード)の補修作業を実施した。



(株)パルの嶋尾博光さん(執行役員)もいっしょに

<実施概要>

日時：2019 年 11 月 9 日(土)
活動：2010～2013 年に植栽した苗木周辺の下草刈りとメンテナンス

<参加者> 34 名

(株)パル、ザ・パック(株)、吉野中央森林組合、NPO 法人地球と未来の環境基金

【広島・竹原市での植樹地メンテナンス事業】

竹原市のフォレスト活動は、今年度は植樹地(竹原市有林)での下刈り活動に加えて、「平成 30 年 7 月豪雨」によって土砂が流出、斜面の崩落などが発生したバンブー公園付近の山林での植樹を実施した。

既存植樹地の下草刈りはいつものように地元の竹原高校の生徒やザ・パック社員ボランティアの協力を得て、尾三地方森林組合の指導の下で実施した。また、植樹については、当初の事業計画にはなかったが、尾三地方森林組合から土砂崩れの発生した所がそのまま放置されており、地元の災害復興を後押しする形で実施できないかとの打診があり、夏から準備を進めた。しかしながら、年末から徐々に広がった新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、2 月 27 日に政府から大規模イベントの自粛要請が出されたこともあり、ザ・パックと協議した結果一般ボランティア参加での植樹イベントは中止とした。一方、植樹場所の地拵えや苗木の調達は既に終わっていたこともあり、苗木は尾三地方森林組合に委託して植え付けを行なっていただいた。それぞれの概要は下記の通りである。

1. 下草刈

- 日時：2019 年 8 月 24 日(土)午前 8 時～11 時半
- 場所：竹原市小梨町の植樹地(市有地、約 0.6ha)
- 参加者：竹原高校の生徒・教員(11 名)、ザ・パック社員(4 名)、
竹原市役所職員(5 名)、尾三地方森林組合・関係者(10 名)、EFF(2 名) 以上計 32 名

2. 植樹（※植樹イベントは中止となったので、植樹内容を記載）

- 場所：竹原市高崎町の山林(市有地、約 0.2ha)
- 植付本数：モミジ 600 本



（写真左）下刈り活動に参加した竹原高校のボランティアの皆さん。



（写真右）平成 30 年豪雨で流れた山林跡地。新型コロナウイルス拡大で植樹イベントは中止となり、森林組合に委託して、準備した苗木 600 本を植付けた。

【子ども自然体験活動／自然の恵みを五感で感じる「親子農体験」活動】

◆社会背景と企画試行のねらい

消費サービス中心の都会に住む子ども達にとって、自然へのふれあいや外遊びの経験が不足しがちである。お金があればなんでも買ってしまう現代社会において、自分が食べるモノを作る生産者側になる経験もほとんどできない。そこで「あぶない／きたない／うるさい」が許されにくい不寛容な社会を生きる子ども達が、畑をフィールドに、自然の中で五感を拓きながら体感することを目的に親子農業体験を行った。

◆当日概要

【日時】 2/1(土)10:00～16:00 【場所】 千葉県佐倉市内 小出農園 / やとみ公民館

【参加者人数】 20 名(うち EFF スタッフ 2 名、小出農園関係者:6 名)

◆プログラムの流れ

【午前】 古くからの日本の知恵伝承「ソウルフードみそづくり」

- ・小出農園さんによる大豆と発酵を促すお米のお話 / お米と仲良しになる紙芝居
- ・手前味噌ソングを歌いながら、みそづくり

【午後】 節分直前！子どもも大人もごちゃまぜ鬼ごっこで全体交流

9・10 月の台風の影響で受け入れ団体の農園も大きな被害を受け、3 回予定していた内容のうち 1 回実施となった。企画における重要なポイントは 2 点ある。1 点目は、親子で楽しむ創意工夫として、遊びの要素を盛り込んだこと。具体的には、小出農園さんが大豆を育てる様子を映像で伝えてくださったことに加え、紙芝居で発酵を促すお米の歴史を知る機会があったこと。2 点目は、誇りを持って農業を営む人の存在を伝える工夫をしたこと。日頃から「自然が育てた野菜とお米を子どもたちへ」を掲げている小出農園さんとの取り組みだからこそ、地域の方々との交流も持つことができた。事前準備から意見交換し企画を練りあげ、充実した時間を作ることができた。

◆参加者の声

- ・ 娘にとって貴重な機会となった。心が広く遊び心が満載、大人も真剣に遊ぶ姿が子どもたちに伝わったと思う。見たこともない笑顔が飛び出した。
- ・ 「子育ては孤独じゃない。大人みんなで育てる」を感じられる一日だった。農業を営む皆さんに親子ともども甘えさせて頂き、まさにプライスレス！貴重な 1 日となった。

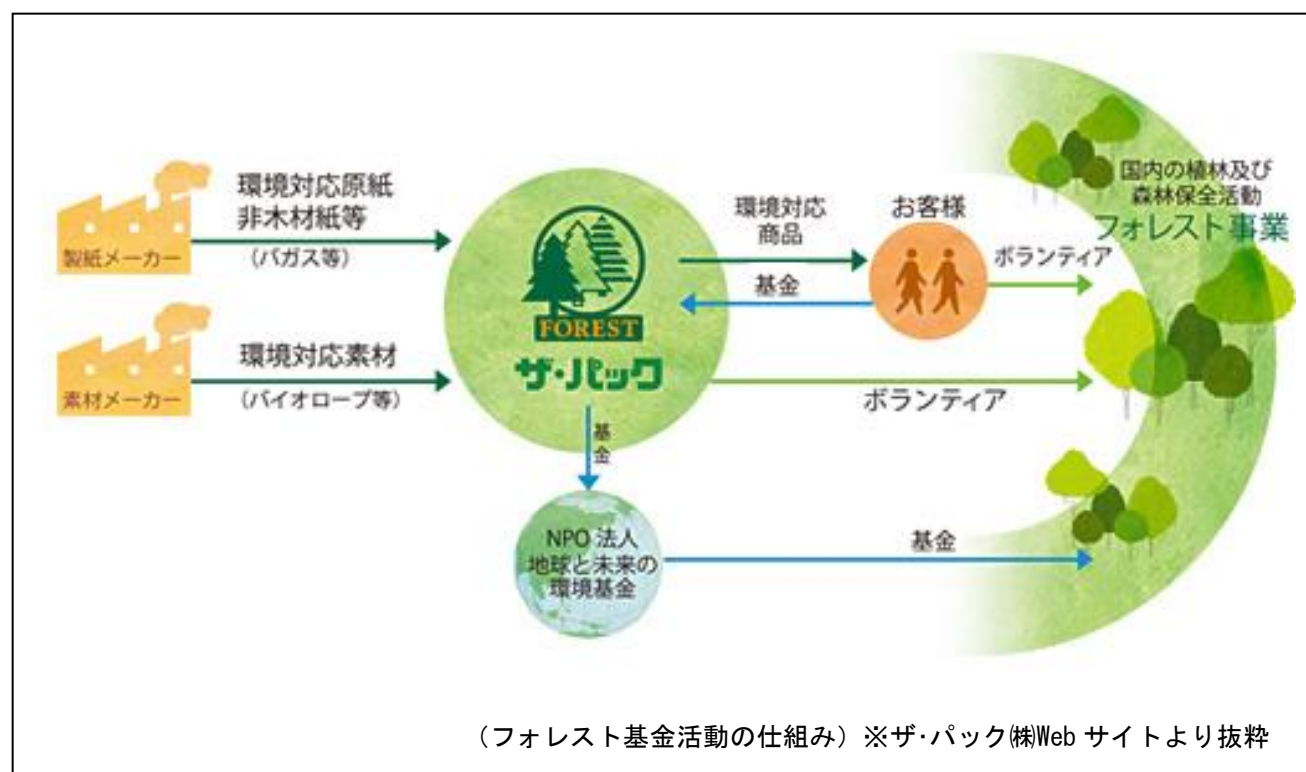


【新規植樹地調査】

当団体ではザ・パック㈱から委託を受けて、フォレスト基金の管理・運営を行っている。ザ・パック㈱との協働で取り組むフォレスト活動は、現在までに 1 号地(岩手県西和賀町)、2 号地(奈良県吉野町)、3 号地(沖縄県恩納村)、4 号地(広島県竹原市)、5 号地(千葉県君津市)、6 号地(大阪府高槻市)、7 号地(埼玉県日高市)、8 号地(大阪府四条畷市)と 8 つの森林整備を展開して来た。

フォレスト基金は包装資材メーカーであるザ・パック㈱が顧客に販売する商品の売り上げの一部が拠出されており、フォレスト活動はこの基金を活用して実施されている。また、基金を活用した新たな活動や植樹地の提案が求められることがあり、ザ・パック㈱からの依頼に応じて調査、提案など行っている。

今年度はアパレルブランドを展開する顧客とのタイアップ企画の提案や、ザ・パック社員とその顧客企業社員が合同で森林整備を行う活動の可能性調査として、依頼のあった地域での行政等の Web サイト、報告書など二次情報を検索、調査を進めた。具体的な活動地の現地折衝については、年明けの新型コロナウイルス感染拡大を受けて、地域へ出向くことが難しくペンディングとなっているが、感染収束後はザ・パック㈱側とも協議しながら、新しい森林整備の活動調査を行って行く。



【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】

奈良県吉野町の間伐材を原料で製造した「結糸」(YOUITO)は、引き続き既存の販売先等に対して在庫商品を販売して行くことに限定して対応した。

ブックカバー、ペンケース、ご祝儀袋の3商品については、日本橋にある奈良県のアンテナショップ「まほろば館」、フェアトレード商品やオーガニック食品など扱う通販サイト SoooooS(運営会社: <https://soooooos.com/>) で販売を継続しており、昨年から新たに飛騨五木(株)(本社: 岐阜県高山市)が名古屋市で運営する moriwaku café(名古屋市中区錦 2-90-20)で販売していただいている。細々とではあるが、在庫の出荷を行った。

また、事務所を間借りすることで平素からお世話になっている(株)パノコトレーディングの紹介で、生協等へ生活雑貨を販売している「生活アートクラブ」から、結糸の生地を使った製品の開発を行い、生協等へ提案してみたいとの打診があり、12月に生地サンプルを出荷した。年明けからの新型コロナウイルス感染拡大などがあった影響もあり、製品開発は少し停滞している模様だが、少しでも在庫にある生地が活かせることを期待している。

期末時点での棚卸商品額は以下の通りとなっている。

■商品: 502,019 円

■生地: 613,577 円

引き続き在庫の現金化を進めて行く。



販売継続中の3アイテム

ブックカバー（左上）、ご祝儀袋（右上）

ペンケース（左下）

【生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人 CEPA ジャパン事務局)】

2010 年 10 月に開催の生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)において採択された「愛知目標」の短期目標を達成するため、主導的な役割を果たした「生物多様性条約市民ネットワーク」の活動が母体になり「一般社団法人 CEPA ジャパン」が設立された。当法人は CEPA ジャパンからの依頼を受け 2013 年より事務局業務の一部を受託し、今年も地球環境基金助成事業に係わる事務をはじめ、国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)主催の生物多様性アクション大賞事務局業務も担っている。

●生物多様性アクション大賞 2019 概要●

「国連生物多様性の 10 年日本委員会」(UNDB-J)では、国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう「5つのアクション」(たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう)を広く呼びかけている。「生物多様性アクション大賞」は、全国各地で行われている5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化に貢献するもので 2013 年度に創設。2014 年度より UNDB-J と一般財団法人セブン-イレブン記念財団との共催で実施。2017 年度には、環境大臣賞、農林水産大臣賞、SDGs 賞が新設されている。



■募集期間: 2019 年 7 月 26 日(金)～2019 年 9 月 17 日(火)

■大臣賞決定・授賞式: 2019 年 12 月 5 日(木) ■URL: <http://5actions.jp/award/>

■実施体制

主 催: 国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J) 共 催: 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協 賛: 前田建設工業株式会社、セキスイハイム、株式会社 JTB 協 力: 富士フイルム株式会社、株式会社オルタナ

特別協力: 公益社団法人国土緑化推進機構 経団連自然保護協議会

後 援: 環境省、農林水産省、生物多様性自治体ネットワーク、朝日新聞社 共同通信社 日本経済新聞社 毎日新聞社

事務局: 一般社団法人 CEPA ジャパン

審査委員: 渡邊綱男(IUCN 日本委員会委員長) ※審査委員長※、三輪隆(株式会社竹中工務店)、小野弘人(セブン-イレブン記念財団)、沖修司(国土緑化推進機構)、川廷昌弘(CEPA ジャパン)、坂田昌子(UNDB 市民ネット)、道家哲平(日本自然保護協会)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、久保牧衣子(農林水産省大臣官房政策課環境政策室長)、山本泰生(環境省自然環境計画課生物多様性主流化室長)

■応募総数: 91

■環境大臣賞: 「エコガイドカフェ」ノータッチサンゴ(沖縄県)(つたえよう部門優秀賞)

■農林水産大臣賞: 「伝統食材「あかじゃが」「アワバタダイズ」を活用した地域振興プロジェクト」
群馬県立勢多農林高等学校 植物バイオ研究部(群馬県)(たべよう部門優秀賞)

■5部門優秀賞: ふれよう部門・川名里山レンジャー隊(神奈川県)、まもろう部門・オオタカ保護基金(栃木県)
えらぼう部門・株式会社スマイリーアース(大阪府)

■特別賞(4 賞): 復興支援賞・網地島ふるさと楽好(宮城県)、SDGs 賞・愛知商業高等学校ユネスコクラブ(愛知県)、
セブン-イレブン記念財団賞・熊本県立岱志高等学校理科部(熊本県)、
グリーンウェイブ賞・株式会社アキュラホーム ウッドストロープロジェクト(東京都)

■審査委員賞: 上西郷川日本一の郷川をめざす会(福岡県)、環境ネットワーク「虹」(福岡県)、特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク(東京都)、社会福祉法人埼玉のぞみ園 深谷たんぽぽ(埼玉県)、生物多様性びわ湖ネットワーク(滋賀県)、中越パルプ工業株式会社(東京都)、登米市立米谷小学校(宮城県)、なごや生物多様性保全活動協議会(愛知県)、新潟市(新潟県)

この 他 37 団体が入賞

（2）海外環境保護事業

【ブラジルでの河岸林保全事業】

ブラジルのカウンターパート NGO「アマゾン森林友の協会（ASFLORA）」の協力を得て、今年度もアマゾン地域での河岸浸水林保全事業を継続した。今年度は引き続き国土緑化推進機構（緑の募金）の助成が得られ、アバエテトゥーバ市近郊の島嶼部にあるベルミーロ集落（9 家族、43 人）で、浸食により崩落、流出した河岸林の復元や、地域の生活向上のための支援を行なった。

当該地域の世帯あたりの月の収入はおおよそ R\$800（約 16,000 円）で、国の定めた最低給与 R\$1,045（約 2 万円、2020 年 2 月水準）にも満たない貧困地域である。かつて 19 世紀の奴隷制度があった時代、逃亡した奴隷が隠れ住んだ地域で、こうした地域は州や市からの農業指導などの行政の支援も及んでおらず、収入の多くは国の支給する家族手当に頼っている。耕地は、協働方式でマンジョカ、トウモロコシ、フェジョン（豆）を焼き畑方式で植え、僅かながら肉鶏の養鶏が行われていて、自給を主としている。

このベルミーロ集落でも河岸林においてアサイ椰子を増殖しており、河岸の土砂が流出するなどしており、その河岸林を回復させるため ASFLORA のスタッフや実習生が集落の住民とともに 38 樹種、1 千本の植樹を行なった。また、プラスチックゴミの問題はこうしたブラジルの奥地でも深刻で、森林保全の大切さも含めた形での環境教育を実施した。



（写真左）ベルミーロ集落で土砂が流出した川岸。放置しておくと浸食が進んでしまう。



（写真右）地元の住民が参加して、苗木を植え付け。小さな子どもたちも熱心に取り組んでいる。



（写真左）ベルミーロ集落の川岸の植樹地



（写真右）住民が森の中に入って、Asflora スタッフの指導により環境教育を受けている

(3) バガス(非木材紙)普及事業

【大学の学園祭へのバガスモールド(エコ容器)導入】

2009年より、エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす(バガス)を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、約20年前から大学生の学内環境活動の一つとして注目されてきた。

本活動は、全国の学園祭におけるバガスモールドの普及拡大を狙いとしており、最終的には紙関連業界(卸商や小売店など)に対するバガス(非木材紙)への認知度向上および経済的インセンティブの喚起といった社会的インパクトを目指している。

2012年から、バガスモールド導入に係る事柄だけではなく、他の環境企画やバガスモールドの土壌分解のコツ、大学祭自体の来客数増加施策、実行委員会の人材戦略やミッション・ビジョン作りなどの相談にも乗るなどしながら、導入を呼びかけてきたが、昨今の大学生数の減少、環境サークルの解散などで、そもそも大学祭の環境対策に取り組む大学が減ってきている。

そのような状況下、2019年度は3つの大学祭でバガスモールドを利用していただいた。東京農業大学2キャンパスに限っては、上記のように環境活動に励む学生が総体的に減っているにもかかわらず利用数(注文量)が多い。それは、環境活動学生(環境サークルのメンバー)に限らず、一般の学生であっても環境意識が高いためだろう。

また、2019年度は新しい取り組みとして、認定NPO法人JUON NETWORKと連携して間伐材割り箸をラインナップ、販売をスタートさせた。初年度は僅かだったが、今後、バガスモールドと合わせて普及させていきたい。

また、近年では、マイクロプラスチックによる生態系汚染の問題が各種メディアで頻繁に取り上げられ、一般市民だけでなく、地方自治体、民間企業もプラスチックフリーの動きを強めている。さらに、2020年初頭からの新型コロナウイルスの世界的大流行の影響で、今後、ワンウェイ容器のニーズが高まることが予想される。ただ、イベント自体の自粛・縮小の方針はしばらく続くと思われる、今年度は総合的にはモールドの利用頻度は減るだろう。来年度(2020年度)は、社会が正常化し、日常に戻った時に市民が「ワンウェイの容器にするならバガスモールド」と社会に印象付けさせる好機の間と捉え、2019年度中に開発できなかった普及啓発ツール(SNS広告用の動画)の制作に取り組みたい。

<2019 年度 学園祭等でのバガスモールド導入実績(個数)>

大学名 団体名 (日時)	どんぶり				パック		丸皿	平角皿		コップ	モールド* 合計	間伐材 割り箸	木製 スプーン フォーク
	MD-3	MD-5	MD-6	MD-7	MP-1	MP-2	MM-4	MT-1	MT-3	L051			
	φ 154 × 54	φ 160 × 68	φ 135 × 47	φ 112 × 45	184 × 129 × 44	171 × 118 × 37	φ 180 × 17	200 × 111 × 13	200 × 140 × 17	φ 80 × 91			
足尾に縁を 育てる会 (納品日:4/25)		2,000									2,000		
信州大学 松本キャンパス (11月3,4日)							150				150		
東京農業大学 世田谷キャンパス (11月1～3日)	7,600					22,800			5,200	12,000	47,600		3,500
東京農業大学 厚木キャンパス (11月2,3日)	4,300	2,550	1,600	4,350	1,600	6,300	1,500	2,000	1,700	6,700	32,600	4,200	1,200
合計	11,900	4,550	1,600	4,350	1,600	29,100	1,650	2,000	6,900	18,700	82,350	4,200	4,700

（４）環境助成金プログラム支援事業

【環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)】

パナソニック(株)との協働で実施している、NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPOサポート ファンド』は、新規の公募は2017年度で終了としており、2018年度に引き続き2019年度は継続募集(継続募集も今期で最後となる。)のみを受付けた。助成テーマは変わらず「客観的な視点を取り入れた組織基盤の強化」とし、第三者のアドバイザーを導入することで実効性の高い組織課題解決の取り組みを推進し、環境分野の市民活動の持続的発展、社会課題の解決促進、社会の変革へ貢献することを目指す。

助成への応募数は5件(2016年募集:2件、2017年募集3件)。助成団体の選考プロセスは、8月2日に受付を締め切り、応募のあった5件について3人の選考委員に案件評価を依頼した。その上で9月上旬に選考委員会を開催、助成先候補として2団体に絞り込んだ。9月中旬に事務局が助成先候補2団体に対し、選考委員会で出された指摘・確認事項に基づいてヒアリング(継続募集ゆえにメールコミュニケーションによる)を実施した。10月上旬にヒアリング結果を選考委員会へフィードバック、選考委員の最終意見を取りまとめ、パナソニック(株)との協議および選考委員長の決裁を得て最終的な助成先として2件を選定、計350万円の助成を確定させた。

2019年に本助成を受けて組織基盤強化に取り組んだ4団体〔助成事業期間：2019年1月～12月〕からは四半期報告書で助成事業の進捗について報告を受け、6月下旬～7月上旬に各団体への中間ヒアリングを実施、助成事業の進捗状況を確認、事業実施上の問題点や下半期へ向けた計画の変更などを協議した。2020年2月18日には、助成先4団体を集めて成果報告会(於 パナソニックセンター)を開催、事業成果の発表と共有を行い、今後の活動に対して選考委員や参加者から意見やアドバイスをいただいた。

＜Panasonic NPOサポート ファンド 2019年募集事業(継続) 助成先＞

助成団体	所在地	代表者（役職）	助成額 (万円)
【組織基盤強化事業】(継続3年目)			
(特活)持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会 「日本の森林を守る自伐型林業者の全国定着に向けた 情報発信・人材育成・経営環境基盤強化事業」	東京都	中嶋 健造（代表理事）	200
(認定)自然環境復元協会 「レンジャーズプロジェクトを起点とした組織の基盤強化」	東京都	石川 晶生（理事長）	150
助成総額（2団体）			350

【分散型電源導入促進事業費補助金】

当法人では、平成25年5月より、省エネルギーや電力需給の安定化を目的とした「分散型電源導入促進事業費補助金」の基金設置法人として、天然ガスコージェネレーション、自家発電設備（コージェネレーションシステムにおける発電設備を含む）の導入や燃料費に対して補助金を交付する事業を実施している。

本事業は、ガスコージェネレーション推進事業と自家発電設備導入促進事業に区分され、両者とも補助金の交付は終了している。平成30年度は前年度に引き続き、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しなどの業務を行ない、自家発電設備導入促進事業において取得財産の処分事業（合併に伴う地位の承継）が1件発生し、これに対応した。

平成27年5月に交付決定の取消を行ない、補助金（5億円）の返還を求めているテクノ・ラボ(株)の事案については、当時の同社の実質経営者であった岡登和得氏への刑事裁判が平成30年8月28日に最高裁で有罪判決が確定、これを受け平成30年12月25日、テクノ・ラボ(株)に対しての5億円の補助金返還等に伴う民事訴訟を提訴した。これについては、令和2年3月13日東京地方裁判所において、当方の主張が概ね認められる判決を得た。

現在、本事案を委任している顧問弁護士の石井邦尚氏、事務局を委託していたみずほ情報総研(株)と協力し、強制執行手続きの準備を進めている。

【財産処分の状況】

ガスコージェネレーション推進事業（事務局：（一社）都市ガス振興センター）

■財産処分の報告があった件数： 0件

■財産処分に伴う補助金の返納額： 0円

自家発電設備導入促進事業（事務局：みずほ情報総研(株)）

■財産処分の報告があった件数： 1件

■財産処分に伴う補助金の返納額： 0円

【廃炉・汚染水対策事業費補助金】

当法人では、平成26年2月より、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施している。

本補助金の交付規程では、補助事業の完了した日の属する補助事業者の会計年度の終了後5年間、補助事業者の毎会計年度終了後90日以内に補助事業に係る収益状況について収益状況報告書により基金設置法人に報告しなければならないとされている。平成27年度末までに全ての補助事業は終了しており、当法人ではこの規程に基づいて平成28年度より収益状況報告書の収受、確認の業務を行なっている。

平成31/令和元年は令和2年3月末までに38件の収益状況報告書を収受、確認し、収益が生じたと認められた事業者はなかった。

また、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分の事案が4件発生した。うち2件は補助金により取得した機器や設備を大学や東京電力廃炉資料館に無償貸与するもので、補助金の返還は伴わない事案として資源エネルギー庁への報告を行なった。また、他2件は廃炉汚染水処理の技術開発に係る実規模試験施設を廃棄処分する際の鋼材(屑鉄)を処分する事案で、一定額の処分収益が発生したことから、補助事業者に対して収益の基金への納付を行わせた。

加えて、補助事業者が補助金を活用した事業において、不適切な労務費の計上が発覚、一部交付決定の取り消しを行い、一部補助金の返還を行わせた。

【財産処分の状況】

- 財産処分の報告があった件数： 2件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 10, 547, 042円

【交付決定の一部取り消しによる基金への返納額】 1件(1, 343, 267円)

2019 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、整備活動にも参加いただいています。



株式会社 パックタケヤマ

商品売上げの一部で国内森林保全活動をご支援いただいています。



株式会社 WASARA

国内・海外の環境保全活動をバガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。



株式会社 荻野屋

国内環境保全活動を環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

服部製紙株式会社

国内・海外の環境保全活動に環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。



株式会社 バリュープランニング

海外環境保全活動（ブラジル・アマゾンの熱帯雨林再生）に、キャンペーン期間中の売上げの一部をご寄付いただきました。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛

株式会社 エディオン

株式会社 エディオン

国内森林保全活動（静岡・川根本町）に、ご協賛・ご参加頂いています。



中外製薬株式会社

国内森林保全活動（静岡・川根本町）に、ご協賛・ご参加頂いています。